

平成23年度第9回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成24年3月1日（木）13：30～15：30

場 所：愛媛大学本部2階第2会議室

議 題：

1. 平成23年度SPOD事業経費について
 - ・平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業執行計画（案）【資料1－1】
 - ・平成23年度SPOD事業経費支出内訳（案）【資料1－2】
 - ・平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費 【参考資料1】
2. 平成24年度共同事業契約書（案）について
 - ・共同事業契約書（案）【資料2】
3. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約の改正について
 - ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約（改正案）【資料3】
4. 平成24年度共同事業契約における役割分担等について
 - ・平成24年度共同事業契約における役割分担等について（案）【資料4】
5. 平成24年度SPOD事業について
 - ・平成24年度SPOD事業計画（案）【資料5】
6. SPOD内講師派遣について
 - ・平成24年度SPOD内講師派遣プログラム一覧【資料6－1】
 - ・SPOD研修講師一覧掲載用原稿【資料6－2】
7. 社会連携系職員養成プログラム開発について
 - ・SPOD－SDセミナー「社会連携系職員養成プログラム開発」アンケート集計結果【資料7】
8. SPOD教員向け研修ニーズアンケートについて
 - ・SPOD教員向け研修ニーズアンケート分析結果【資料8】
9. 平成23年度愛媛大学教育改革シンポジウムについて
 - ・平成23年度愛媛大学教育改革シンポジウムポスター【資料9】
9. その他
 - ・平成23年度 FD／SD取組報告【資料10】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約 (改正案)

〔平成 20 年 10 月 18 日
制 定〕

(名称)

第1条 本会は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education。以下「SPOD」という。）と称する。

(目的)

第2条 SPODは、四国地区の大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）の連携・協働により、地区内のFD／SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 SPODは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) FD／SDプログラム等の調査研究及び開発
- (2) FD／SDプログラム等の共同実施及び共同利用
- (3) FDe r（ファカルティー・ディベロッパー）及びSDC（スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター）の養成
- (4) 参加大学等間における職員派遣等による交流
- (5) その他SPODの目的を達成するために必要な活動

(加盟校)

第4条 SPODは、別表第1に定める加盟校をもって構成する。

- 2 四国地区の大学等で、SPODの目的及び事業に賛同するものは、新たにSPOD加盟校となることができる。ただし、その大学等の所在する県のコア校の承認を得なければならない。
- 3 SPODを退会する場合には、会長の承認を得なければならない。ただし、原則として退会する3ヶ月前までに会長に申し出るものとする。

(コア校)

第5条 加盟校のうち、別表第2に定める大学をコア校とする。

- 2 コア校は、共同でネットワークコアを形成して、第3条各号の事業を企画立案、実施するほか、各県内の加盟校からの意見の集約及び調整等を行う。

(その他の加盟校)

第6条 加盟校のうち、前条のコア校以外の大学等は、ネットワークコアの依頼に応じて、第3条各号の事業に参加する。

(代表校)

第7条 コア校のうち、1校をSPODの代表校とする。

- 2 代表校は、コア校の互選により選出する。
- 3 代表校の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会長、副会長、監事及び企画・実施統括者)

第8条 SPODに、会長（1名）、副会長（3名）、監事（2名）及び企画・実施統括者（1名）を置く。

- 2 会長及び企画・実施統括者は、代表校から選出する。
- 3 副会長は、代表校を除くコア校から選出する。
- 4 監事は、コア校を除く加盟校から選出する。
- 5 会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 6 会長は、SPODを代表する。
- 7 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 8 監事は、会計を監査する。
- 9 企画・実施統括者は、SPOD活動に係る企画及び実施を統括する。
- 10 補欠による会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、前任者の残任期間とする。
(総会)

第9条 SPODに、総会を置く。

- 2 総会は、加盟校をもって構成し、代表校が招集する。
- 3 総会の議長は、会長が務める。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。
- 5 加盟校は、当該加盟校を代表して総会に出席する者1名(以下「代表者」という。)を、事前に登録しなければならない。ただし、加盟校に所属する他の者が、事前に登録した者を代理し、又は総会に陪席することを妨げない。
- 6 総会は、次の事項を審議する。
 - (1) SPOD事業契約の役割分担に関すること。
 - (2 ~~4~~) SPODの活動方針及び活動報告に関すること。
 - (3 ~~2~~) SPODの規約に関すること。ただし、別表を除く。
 - (4 ~~2~~) 会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の選出に関すること。
 - (5 ~~4~~) SPODの予算及び決算に関すること。
 - (6 ~~5~~) その他全加盟校による審議が望ましい事項
- 7 総会は、加盟校の過半数が出席しなければ、開会することができない。ただし、加盟校は、審議事項があらかじめ決定している場合においては、事前の意見提出をもって出席に代えることができる。
- 8 総会の議事は、出席の加盟校の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(ネットワークコア運営協議会)

第10条 SPODに、ネットワークコア運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 協議会は、コア校をもって構成し、原則として月1回開催する。
- 3 協議会の議長は、企画・実施統括者が務める。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。
- 5 協議会は、次の事項を協議する。
 - (1) SPODの活動に係る企画立案及び実施に関すること。
 - (2) SPODの行う研究開発、人材育成等に関すること。
 - (3) その他SPODに係る重要な事項
- 6 協議会における協議概要及び配付資料は、原則として加盟校に配付する。

(事業評価委員会)

第11条 SPODに、事業評価委員会(以下、「委員会」という。)を置く。

- 2 委員会は、協議会が作成した実績報告書を基に事業評価を行う。
- 3 委員会は、その委員の過半数をSPODの加盟校以外に所属する者により構成する。
- 4 委員会の議長は、企画・実施統括者が務める。
- 5 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。
- 6 委員会は、第2項に定める事業評価を行った後、その結果を協議会に報告する。

(事務局)

第12条 SPODの事務局は、代表校に置き、加盟校の協力を得て運営にあたる。

(会計)

第13条 SPODの事業経費は、加盟校からのネットワーク年会費及びその他収入をもって充てる。

2 監事は年1回の監査を行う。

(その他)

第14条 本規約に定めるもののほか、SPODの運営に関し必要な事項は、総会又は協議会が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成20年10月18日から施行する。

2 この規約の施行後、最初に任命される第7条第1項の代表校の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

3 別表は、新たな加盟校があった場合等に適宜改訂を行うものとする。

附 則

この規約は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成24年4月1日から施行する。

別表第 1 加盟校

徳島大学
鳴門教育大学
香川大学
愛媛大学
高知大学
香川県立保健医療大学
愛媛県立医療技術大学
高知県立大学
高知工科大学
四国大学
徳島文理大学
四国学院大学
高松大学
聖カタリナ大学
松山大学
松山東雲女子大学
高知短期大学
四国大学短期大学部
徳島工業短期大学
徳島文理大学短期大学部
香川短期大学
高松短期大学
今治明德短期大学
環太平洋大学短期大学部 愛媛女子短期大学
聖カタリナ大学短期大学部
松山東雲短期大学
松山短期大学
高知学園短期大学
阿南工業高等専門学校
香川高等専門学校
新居浜工業高等専門学校
弓削商船高等専門学校
高知工業高等専門学校

別表第 2 コア校

徳島大学
香川大学
愛媛大学
高知大学

平成24年度のSPOD事業計画（修正案）

※赤字：平成23年度事業からの追加・変更事項

1. FD事業 ※実施内容の詳細及び研修実施時期は、「研修プログラムガイド2012」参照

- ・新規採用教員研修（年5回） 開催場所：各コア校 ※愛媛大学は2回実施

- ・~~ファカルティ・ディベロッパー養成講座~~ 開催場所：東京

- ※~~教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）の事業として実施~~

- ・FDファシリテーター（FD担当者）養成研修（年1回）

開催場所：東四国—徳島大学 西四国—愛媛大学

- ・ティーチング・ポートフォリオ~~開発~~作成ワークショップ（年3回）

①全加盟校教員対象（年2回）

開催場所：東四国—徳島大学または香川大学 西四国—愛媛大学

②高専対象（年1回） 開催場所：阿南高専

- ・ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ（年~~1-2~~回）

開催場所：徳島大学、~~愛媛大学~~

※徳島開催については、SPODフォーラム2012において開催

- ・教育系外部資金獲得のためのワークショップ 開催場所：愛媛大学

- ・組織開発に関する共同研究事業

- ・その他各種FDプログラムの実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2012に掲載したプログラム

- ・FDプログラムの開発

各加盟校に対して行うニーズ調査結果をもとに検討

2. SD事業 ※実施内容の詳細及び研修実施時期は、「研修プログラムガイド2012」参照

- ・講師養成プログラム（年2回） 開催場所：愛媛大学1回，コア校1回

平成24年5月中旬・平成25年2月中旬

※主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年3回） 開催場所：愛媛大学

レベルⅠ 1回 10~~9~~月中旬

レベルⅡ 1回 9~~10~~月中旬

レベルⅢ 1回 6月上旬

※主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学

- ・学務系職員養成プログラム（レベルⅡ 年1回） 開催場所：愛媛大学 9月

※主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学

- ・次世代リーダー養成プログラム（年8回）

平成23年度受講者対象 4回、平成24年度受講者対象 4回

開催場所：徳島県，香川県，愛媛県，高知県

第1回 6月下旬

第2回 7月下旬

第3回 11月中旬

第4回 平成25年1月下旬

※主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学

- ・高等教育トップリーダーセミナー（年1回） 開催場所：（徳島大学）

SPODフォーラム2012で実施

※主担当：SPOD事務局 協力校：香川大学

- ・スタッフ・ポートフォリオの開発

ワークショップをSPODフォーラム2012で実施

~~・職員キャリアアップサポート（人事交流等）~~

~~—各加盟校で検討~~

- ・その他各種SDプログラムの実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2012に掲載したプログラム

- ・SDプログラムの開発

各加盟校に対して行うニーズ調査結果をもとに検討

3. SPODフォーラム

- ・平成24年8月22日（水）～24日（金） 開催場所：徳島大学

※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）と共催

4. SPOD共通事業

- ・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計26回）

ただし、短期大学及び短期大学部が併設されている4年制大学については、あわせて1回とする。詳細は、研修プログラムガイド2012に掲載 開催場所：各加盟校

- ・遠隔専用セミナー「SPODチャンネル（仮称）」の配信

5. SPOD運営

①総会（年1回） 平成25年3月頃

②ネットワークコア運営協議会（毎月）

③事業評価委員会（年1回） 平成25年3月頃

④監査（年1回） 平成25年3月頃

⑤その他

i. FD／SD分科会

- ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催（平成25年3月頃）

- ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催（平成25年3月頃）

ii. SPOD加盟校県内会議

- ・徳島県内（随時）

- ・香川県内（随時）

- ・愛媛県内（随時）

- ・高知県内（随時）

SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧

	学校名	区分	プログラム名	講師担当校
徳島	徳島大学	FD	学生が動く・変わる・生き活きするグループワークの進め方	高知大学
	鳴門教育大学	SD	大学職員のための企画力養成講座	愛媛大学
	四国大学・四国大学短期大学部	FD	授業アンケートを見直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～	高知大学
	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	FD	マンネリ化しない公開授業の秘訣～公開授業の効果的実施方法～	徳島大学
	徳島工業短期大学	FD	マンネリ化しない公開授業の秘訣～公開授業の効果的実施方法～	徳島大学
	阿南工業高等専門学校	FD	教育の質保証とは何か～スタンダード設定からアセスメントまで～	愛媛大学
香川	香川大学	FD	学生が動く・変わる・生き活きするグループワークの進め方	徳島大学
	香川県立保健医療大学	FD・SD	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	香川大学
	四国学院大学	FD・SD	希望なし(FD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～)	香川大学
	高松大学・高松短期大学	FD・SD	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	香川大学
	香川短期大学	FD・SD	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	香川大学
	香川高等専門学校	FD	高専生を元気にする学生指導法のコツ	阿南工業高等専門学校
愛媛	愛媛大学	FD・SD	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	徳島大学
	愛媛県立医療技術大学	FD・SD	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	愛媛大学
	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	FD	大人数講義を魅力的にするテクニック	香川大学
	松山大学・松山短期大学	FD・SD	希望なし(FD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～)	愛媛大学
	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	SD	スタッフポート・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～	愛媛大学
	今治明德短期大学	FD	学生が動く・変わる・生き活きするグループワークの進め方	徳島大学
	愛媛女子短期大学	FD	教育の質保証とは何か～スタンダード設定からアセスメントまで～	愛媛大学
	新居浜工業高等専門学校	FD	高専生を元気にする学生指導法のコツ	阿南工業高等専門学校
	弓削商船高等専門学校	FD	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	愛媛大学
高知	高知大学	SD	大学職員のための企画力養成講座	愛媛大学
	高知県立大学・高知短期大学	FD	授業アンケートを見直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～	高知大学
	高知工科大学	FD・SD	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	高知大学
	高知学園短期大学	FD・SD	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	高知大学
	高知工業高等専門学校	FD	高専生を元気にする学生指導法のコツ	阿南工業高等専門学校

<氏名（よみがな）>

坪井泰士（つばいたいじ）

<職名>

阿南工業高等専門学校 教授



<経歴>

広島大学教育学部卒業。高等学校教員を経て、1989 年度から阿南工業高等専門学校に勤務。学生による授業評価、ピアレビュー等の授業改善方法の導入に携わるとともに、これらを用いた統合的授業改善システム（授業コンサルティング）を構築。2005 年度からは、校長補佐を兼任（2012 に至る）。

<資格等>

高等学校教諭二級普通免許状

中学校教諭一級普通免許状

<SPOD内講師派遣で担当可能なプログラム名>

「高専生を元気にする学生指導法のコツ」

<実績>

- ・「ティーチング・ポートフォリオの新任研修への活用について」，ティーチング・ポートフォリオ シンポジウム in 阿南，教員研修，2012.2.13 予定（阿南高専）
- ・阿南高専新任教員研修担当（ロングターム TP），教員研修，H22-現在に至る
- ・「阿南工業高等専門学校におけるティーチング・ポートフォリオの活用 ―新任教員研修として―」，佐賀大学ティーチング・ポートフォリオの導入・活用シンポジウム 2011，2011.11.18（佐賀大学）
- ・「モデルコアカリキュラムと高専の教育」，教員研修，2011.9.12（函館高専）
- ・「クラス経営・生活指導についての情報交換とワークショップ」，平成 23 年度独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会），2011.9.8（学術総合センター）
- ・「高専における学生サポートをどうするか？―クラス経営・保護者対応・情報共有―」，SPOD フォーラム 2011，2011.8.26（愛媛大学）
- ・「学生が主体的に参加する授業を目指して―内発的動機を高める様々な手法―」，教員研修，2011.1.21（金沢高専）
- ・「ティーチング・ポートフォリオ メンター（メンティー2 名）」，ティーチング・ポートフォリオ WS in Anan，2010.12.17-19
- ・「全校的な授業改善システムの構築にむけて」，教員研修，2007.11.6（東京高専）
- ・「全校的な授業改善システムの構築にむけて」，教員研修，2006.9.20（東京高専）
- ・「学生による授業評価結果の公開とその活用」，教員研修，2003.12.8（佐世保高専）

<ひとこと>

①「クラス経営・生活指導」（高等学校教員および寮務主事，学生主事の経験を生かして），②「学生による授業評価，ピア・レビュー等を活用した授業コンサルティングおよび統合的授業改善」（校内 FD 委員長，授業コンサルティングの経験を生かして），③「ティーチング・ポートフォリオを活用した教員研修システム」（のべ 8 名の新任教員研修担当の経験を生かして）に関心を抱き，取り組んできました。

参加者間での情報共有，信頼関係の構築により，「FD（教員個人および組織的）」，「クラス経営・生活指導」について，より意欲的に慣れることが研修でもっとも大切なことだと考えています。

<氏名（よみがな）>

大竹 奈津子（おおたけ なつこ）



<職名>

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室 特任助教

<経歴>

愛媛大学農学部生物資源学科卒業。愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。2009年4月より愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室着任。専門は、高等教育開発、水文学。

<SPOD内講師派遣で担当可能なプログラム名>

「授業コンサルティングの進め方」
「SDプログラム開発ワークショップ」
「スタッフ・ポートフォリオ入門」
「メンタリングのコツ」

<実績>

これまで担当したFDプログラム

- ・「公開授業と授業コンサルティング」講師担当
- ・「研究室教育を活性化させるためのコツ」講師担当
- ・「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」メンター担当
- ・授業コンサルティング コンサルタント担当

これまで担当したSDプログラム

- ・「SDプログラム開発ワークショップ」講師担当
- ・「スタッフ・ポートフォリオ入門」講師担当
- ・「メンタリングのコツ」講師担当
- ・「次世代リーダー養成研修」講師担当
- ・スタッフ・ポートフォリオ メンター担当

その他

- ・「教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ」講師担当
- ・愛媛大学TA・SA研修 講師担当
- ・愛媛大学学習支援室 スタディ・ヘルプ・デスク（SHD）企画・運営管理担当
- ・愛媛大学附属高校「キャリアプランニング」講師担当

<ひとこと>

授業コンサルティングやティーチング・ポートフォリオ等のマイクロレベルのFD活動を通して、教員個人が抱えている課題を引き出し共同で解決策を考え、学生のより良い学びを促進するための授業改善に繋げております。またSDプログラムやスタッフ・ポートフォリオ開発など、職員の能力開発においても、教職協働で取り組んでおります。このような現場での実践および研究を通して、四国地区内の教育力向上を支援していきたいと考えております。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：SPOD-SDセミナー「社会連携系職員養成プログラム開発」
 実施日：平成24年2月17日（金）～2月18日（土）
 実施会場：新居浜ホテルマックスビジョン
 アンケート回答者数：16名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	15	93.8
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	1	6.3
④ その他（ ）	0	0.0
計	16	100.0

(2) 所属先の設置者

	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	12	75.0
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	1	6.3
③ 学校法人	3	18.8
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	16	100.0

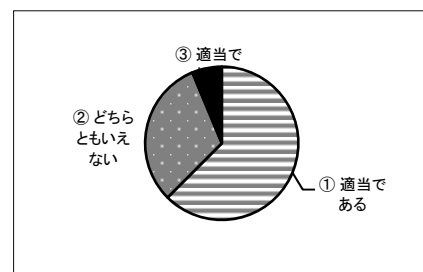
(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）
別紙記載

2. セミナーについて

(1) セミナーの開催時期は適当でしたか。

	回答数	割合
① 適当である	10	62.5
② どちらともいえない	5	31.3
③ 適当でない	1	6.3
計	16	100.0

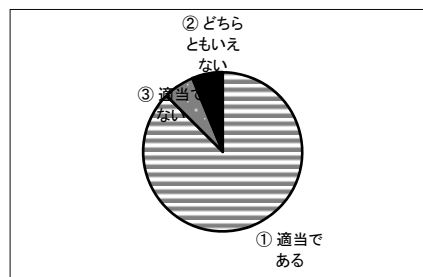
いつ頃の開催が適当ですか。・秋頃



(2) セミナーの期間（長さ）は適当でしたか。

	回答数	割合
① 適当である	14	87.5
② どちらともいえない	1	6.3
③ 適当でない	1	6.3
計	16	100.0

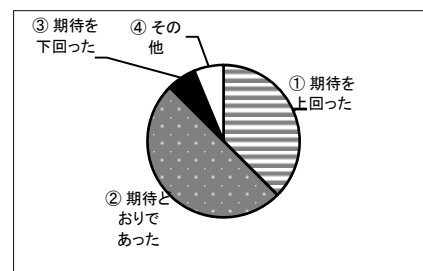
どの位の期間が適当ですか。・2泊3日



(3) このセミナーに参加されていかがでしたか。

	回答数	割合
① 期待を上回った	6	37.5
② 期待どおりであった	8	50.0
③ 期待を下回った	1	6.3
④ その他	1	6.3
計	16	100.0

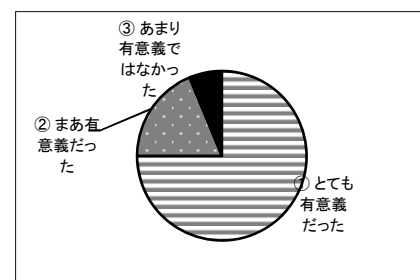
・その他の記述内容 想像と違っていた。



(4) セミナーの内容はあなたの仕事にとって有意義なものでしたか。

	回答数	割合
① とても有意義だった	12	75.0
② まあ有意義だった	3	18.8
③ あまり有意義ではなかった	1	6.3
④ 全く有意義ではなかった	0	0.0
計	16	100.0

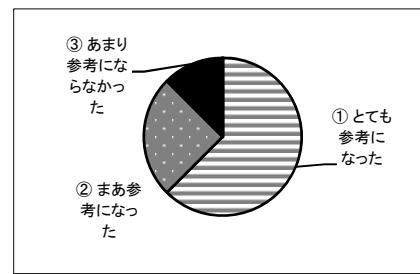
・有意義だった内容、有意義でなかった内容 別紙記載



(5) セミナーは今後のSDマップを開発するのに参考になりましたか。

	回答数	割合
① とても参考になった	10	62.5
② まあ参考になった	4	25.0
③ あまり参考にならなかった	2	12.5
④ 全く参考にならなかった	0	0.0
計	16	100.0

・参考になった内容、参考にならなかった内容 別紙記載



(6) 今後のSDマップを作成するためどのような方法がよいと思いますか。（具体的に）

別紙記載

(7) 今回の合宿セミナーに参加しての意見・要望などをご自由にお書きください。

別紙記載

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ プレゼンテーション能力 (3)
- ・ マネジメント能力 (2)
- ・ 交渉力 (2)
- ・ コミュニケーション能力
- ・ SDプログラムの開発能力
- ・ 特許関連業務知識
- ・ 地域産業
- ・ 財務系
- ・ 社会連携
- ・ 大学職員としての知識 (地財等)
- ・ 外為法・利益相反等専門知識
- ・ 英会話
- ・ 論理の整理力
- ・ リーダーシップ
- ・ 大学の外に主体的に出ていく力
- ・ 部下の育成について企画し、楽しく参加できるような環境を作ること。
- ・ 積極的に情報を集め、分析し企画する能力
- ・ スピーディにまとめる能力
- ・ モチベーション
- ・ 違った視点, 新しい視点, 考え方をもちたい。

2 (4) セミナーの内容であなたの仕事にとって有意義だった内容を、具体的にお書き下さい。

- ・ SDプログラムの開発手法について知ることが出来た。(2)
- ・ 今の業務について再度考えなおすことが出来た。
- ・ グループ討議などの一連の流れを体験した。
- ・ 思いの一端を話すことが出来た。
- ・ 社会連携とは何かがぼんやりとしていたが、土居先生のセミナーではっきりした。
- ・ 改めて、社会連携の業務の奥の深さ、重要さを確認出来た。
- ・ 人間としての資質が一番大事かと思いました。
- ・ 人的つながりが出来た。
- ・ 社会連携系の課に配属されたばかりで、何をしたらいいのかも分からなかったが、何をしていけばいいのかが少し分かった。
- ・ みなさんの発表が、とてもためになった。
- ・ 新しい知識の習得であった。

2（４）セミナーの内容であなたの仕事にとって有意義でなかった内容を、具体的にお書き下さい。

- ・ まとめられなかった。（２）
- ・ 生涯学習系の事を含める余裕が無かった。
- ・ プログラム開発方法・手法（パターン）が過去のＳＰＯＤ研修とほぼ同じで目新しさが少なかった。

2（５）今後のＳＤマップを開発するのに参考になった内容を、具体的にお書き下さい。

- ・ マップ作りのノウハウが分かった。（３）
- ・ グループ討議を通して様々な内容について、知識を得ることが出来た。（２）
- ・ 社会連携業務の実情を把握出来た。
- ・ 他グループのまとめ方を見て、次回の参考になった。
- ・ 業務マニュアル作成の方法に役立つと思う。
- ・ 到達目標の作成は、とても有意義である。

2（６）今後のマップを作成するためどのような方法がよいと思いますか。（具体的に）

- ・ 今回のような方法をやればよいと思います。
- ・ 理想の職員像を設定して、そのギャップを明確にする方法がいいと思います。
- ・ 専門家のアドバイスをいただきながら作成したり、外部の方（自治体や企業）の意見も入れながら作成するといいいと思います。
- ・ 同じ参加者を集めて、今度は違う班を組ませて、同じテーマを議論するのもいいのではないかと思います。

2（７）今回の合宿セミナーに参加しての意見・感想・要望などをご自由にお書き下さい。

- ・ 密室だったので、空気がうすく頭がぼんやりとすることがありました。
- ・ モチベーションの高い方ばかりの集まりで、研修内容もさることながら、その方々との情報交換が出来た事が大変有意義でした。
- ・ とても楽しく出来ました。
- ・ 同じメンバーで次の段階で研修を行えたらと思いました。
- ・ 最近、愛校心がなくなっていましたでしたが、それではいけないと思わせてくれました。
- ・ 内容をあまり考えず希望して参加してしまいました。部分的に大学に持ち帰り、活用出来ることがあり大変参考になりました。

大学・高専教員のFD研修ニーズに関する研究

城間 祥子 大竹 奈津子 山田 剛史 佐藤 浩章
(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室)

1. 問題と目的

FDの実践が各大学で展開しているが、研修プログラムの開発にあたっては、ニーズ把握が不可欠である。FD ニーズは教員の所属校の特徴や学問分野、キャリア段階によって異なることが予想される。先行研究からは、学校種別(杉原, 2008; 城間, 2010)や経験年数(石井, 2010)によって必要なFDプログラムが異なることが明らかになっている。しかし、研修テーマのニーズについては、一大学を対象とした調査(長谷川, 2008)しかなく、各大学で具体的な研修を企画する根拠とするには限界がある。そこで、本研究では具体的な研修テーマについて、個々の教員を対象に大規模なニーズ調査を行った。全体の結果とあわせて、学校種別、専門分野別、キャリア別にニーズ分析を行った結果を報告する。

2. 方法

対象者 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の加盟校(33校)全教員

調査項目 ①回答者のプロフィール(学校種、設置者、専門分野、職位、任期の有無、年齢、高等教育機関での教育歴)、②参加したい研修テーマ(61テーマから複数選択)、③最も関心のある研修テーマ(②から3つまで選択)、④専門分野、科目別研修の希望(自由記述)、⑤研修の告知方法、⑥SPODの研修に対する意見・要望(自由記述)

調査方法 平成23年4～6月に、各校のFD担当者・事務担当者を通して各教員にアンケート用紙を配布し、回収した。回答数は1721(回収率 36%)。

3. 結果と考察

表1に各研修テーマ(抜粋)の選択率を示した。「学習に関する理論」など、共通してニーズの高い研修テーマが見出された。教育や学習の理論を基盤に教育技術を向上させる取組みの必要性が示唆される。一方で、学校種、専門分野、キャリアによってニーズに差があるテーマも存在する。例えば、「研究資金の獲得方法」など研究面での能力開発について、若手教員のニーズが高い。今後、FDを教育面に限定せず、研究面を含む総合的な専門性の開発へと拡張していくことが重要な課題となってくるのではないか。各大学において、既存の枠組みにとらわれず、個々の教員のニーズに即したプログラムの開発が望まれる。

参考文献

- 長谷川祐介(2008)「地方私立大学教員の活動実態とFD活動への意識—比治山大学を事例に—」『比治山高等教育研究』1, 19-30.
- 石井美和(2010)「大学教員のキャリア・ステージと能力開発の課題—広島大学教員調査と東北大学教員調査から—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』5, 29-42.
- 城間祥子(2010)「四国地区の高等教育機関におけるFDの現状及びニーズの分析」『大学教育学会第32回大会発表要旨録』156-157.
- 杉原真晃(2008)「東日本地区におけるFDの現状と課題—FDの現状・ニーズに関するアンケートを通して—」『山形大学高等教育研究年報』2, 30-40.

表 1 研修テーマに対する選択率（抜粋）

研修テーマ	学校種										学問分野				職位			
	全体	大学	短大	高専	人文	社会	理学	工学	農学	保健	教育	教授	准教授	講師	助教			
	(n=1721)	(n=1319)	(n=191)	(n=204)	(n=163)	(n=132)	(n=156)	(n=275)	(n=70)	(n=684)	(n=125)	(n=571)	(n=430)	(n=265)	(n=382)			
02. 学習に関する理論 (学習、記憶、動機づけ等)	48.8%	46.5%	55.0%	58.8%	43.6%	50.8%	42.3%	53.8%	47.1%	50.6%	48.8%	49.2%	50.9%	48.3%	46.3%			
44. 学力の低い学生、モチベーション の低い学生の支援	45.6%	39.6%	65.4%	65.7%	42.3%	54.5%	44.9%	58.2%	37.1%	37.9%	48.8%	49.0%	46.3%	45.7%	37.7%			
12. 講義のための話し方	38.3%	39.5%	37.7%	31.4%	22.7%	33.3%	28.2%	38.9%	40.0%	47.5%	27.2%	30.8%	30.9%	46.8%	52.9%			
20. コミュニケーション能力の育成	38.2%	35.3%	51.8%	44.1%	38.0%	41.7%	29.5%	37.8%	38.6%	36.1%	48.8%	35.0%	37.2%	37.7%	43.2%			
19. 受講態度の悪い学生の指導 (クラスルーム・コントロール技法)	37.3%	34.3%	44.5%	50.5%	38.7%	41.7%	35.9%	43.6%	28.6%	34.2%	37.6%	35.7%	36.7%	37.7%	38.7%			
34. 試験問題の作り方	30.4%	29.9%	27.7%	36.3%	16.6%	30.3%	22.4%	36.7%	22.9%	38.3%	15.2%	23.8%	26.0%	34.3%	44.5%			
04. アクティブ・ラーニング (学生参加型学習)	30.0%	29.0%	37.7%	29.9%	38.0%	36.4%	24.4%	27.3%	24.3%	28.2%	45.6%	11.2%	34.2%	37.0%	25.9%			
57. 研究資金の獲得方法 (申請書の書き方)	28.8%	29.7%	26.7%	25.5%	23.9%	34.8%	26.3%	28.4%	31.4%	30.0%	24.0%	17.9%	33.0%	35.8%	38.5%			
55. 英文での研究論文の書き方	22.7%	24.5%	9.9%	23.5%	11.7%	27.3%	12.8%	20.7%	17.1%	30.7%	16.8%	11.9%	22.6%	28.3%	38.5%			
56. 英語での学会発表の仕方	20.1%	21.8%	8.4%	20.6%	12.3%	23.5%	14.1%	20.4%	18.6%	25.1%	14.4%	9.6%	23.0%	23.8%	33.2%			
54. 研究論文の書き方	17.9%	18.1%	23.6%	13.7%	6.1%	13.6%	7.1%	11.6%	17.1%	25.9%	21.6%	7.5%	14.7%	22.3%	34.3%			
53. 研究計画の立て方	17.0%	16.7%	23.6%	13.7%	6.7%	15.2%	5.1%	15.6%	14.3%	23.5%	16.0%	9.3%	12.8%	21.1%	30.4%			

愛媛大学 教育改革シンポジウム

開催日 平成24年3月5日(月)

見学自由

11:00～12:30 ポスターセッション

会場 アクティブ・ラーニングスペース2(愛大ミュージズ1階)

■「愛媛大学教育改革促進事業」(愛大GP)採択課題の内容と進捗状況を紹介

13:00～13:50 愛大GP採択課題事例発表

会場 M24番教室(愛大ミュージズ2階)

GP= Good Practice
(優れた教育取組事例)

- 『英語教育プログラムの向上と単位の実質化』
- 『日本語コミュニケーションスキル養成のための指導教材開発』及び
『高大連携による「日本語ラーニング」ジェネリックプランの構築』
- 質疑応答

【愛大GPポスターセッション】

平成22年度 採択課題名	
法文学部	教育の実質化を図るためのカリキュラム構築と形成的アセスメントの導入
理学部	大学連携による理学部宇宙物理学コース教育の充実
理学部	学生参加型の生物学リメディアルeラーニング教材開発
医学部 医学系研究科	学士及び大学院課程における臨床解剖教育
理学部	E-Learningによる副教材学習システムの構築(2)
医学部	学生の自己学習を支援する演習教材作成の支援 ～単位の実質化と、ミドルレベルのFDのために～
工学部	大学院修士課程教育カリキュラムの国際化
教育学部附属 特別支援学校	附属五校園の特別支援教育を重視した教育活動の推進
学生支援センター	障がいをもつ学生への支援活動～バリアフリー推進プログラム～
無細胞生命科学 工学研究センター	新しい生命科学教育法開発の展開 ー試験管内タンパク質合成法を基盤とした実習教材の教員教育および高校教育課程における活用ー
附属高校	プロジェクト学習方式及びOMRを活用する授業開発

平成23年度 採択課題名	
医学部	医学科大学院制の確立: 学部-大学院一体化による医学研究者/医学教育者/指導的医師の育成
教育学部	サイエンス・マインドをもった理科担当教員の養成
医学部	経験型実習による自己教育力を高める看護学教育プログラム ー反省的思考(reflective thinking)の段階的な育成ー
工学部	eラーニングを用いた入学前教育及びリメディアル教育の推進
教育学部	学部-全学連携IR体制の構築:教育学部の教員養成を中心に
農学部	「学士力」育成のための安全衛生教育プログラムの整備
共通教育センター	同一科目複数教員担当授業における授業内容及び成績評価の標準化 ー共通教育科目「スポーツ」「スポーツと教育」を事例としてー

■ お問い合わせ 愛媛大学教育企画課教育企画チーム TEL:089-927-9154

平成23年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 学校名を記載してください。

【平成23年度の総括】

平成23年度の、貴学におけるFD／SD活動について総括コメントを記載してください。

【FD／SDの取組事例】

平成23年度に実施したFD／SDの取組事例について記載してください。

事例については、SPOD事業に関するものでも、貴学独自の取組でも構いません。

事例数に特に制限はありません。

【成果及び成果の公表】

FD／SDの取組成果及び成果に関する情報の公表（手段・媒体）について記載してください。

【次年度の課題】

平成23年度の取組内容を振り返り、次年度の課題や目標を記載してください。

※報告書はA4用紙1枚を目処に作成してください。

なお、補足資料がある場合は、別途添付してください。

※写真等の添付は必要ありません。

※上記4項目について記載していただければ、内容や書き方は自由です。

=====

※本報告書は、3／29（木）開催の、平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会とFD／SD分科会の資料として、関係者に配付されます。

=====

平成23年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：愛媛大学

【平成23年度の総括】

本学の教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点としての認定以降、「四国地区の中核拠点としての活動」を中心に、全国の高等教育機関に対する支援を行ってきた。本取組の実施にあたっては、これまでFD・SD活動を一緒に取り組んできたSPODとの連携は不可欠で、拠点が実施するプログラムの多くを、SPODから提供を受けて実施した。また、本拠点の特徴といえるSD事業については、人事課と連携しながら、教職協働で行った。

FD/SDの取組は、単独組織ではなかなか前に進まないため、こうした学内外での連携は今後也不可欠と考える。連携先とは情報の共有や、互いに刺激を受けあいながら、本学独自の取組を進めていく。

【FD／SDの取組事例】

◆第16回、17回授業デザインワークショップの実施 [FD]

第16回：7月9～10日（14名） 第17回：8月31日～9月1日（20名）

本学では、新任教員研修として本ワークショップを、SPODに開放して2回実施した。参加者34名のうち、学外からの参加者は19名、そのうち4名は県外からの参加であった。新任教員研修のSPOD内での標準化により、県内のみならず他県の教員も参加する研修となり、新任教員にとっては、今後の人脈作りや他校の状況を知る貴重な機会となった。

【成果及び成果の公表】

本学から13名の職員が、SDの継続的な実施のためSPODが開催している講師養成研修を受講した。その受講生のうち、SPOD新規事業として愛媛大学で開催された「学務系職員養成プログラム」では3名、「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」では2名の本学職員が実際に研修講師を務めた。また、SPODフォーラム2011でも、次世代養成リーダー研修の1期生として本学の職員2名も講師を務め、徐々にではあるが、学内にSD講師が育っている。この成果について、公表は行っていないため、今後、HPに掲載する等学内外へ発信していく。

【次年度の課題】

FD・SDスキルアップ講座等、本学で毎年継続的に開講されているプログラムについて、受講者の減少が感じられる。毎年同様の内容で開催しているため、既に多くの教職員が受講しているためと考えられる。今後は、参加者のニーズやレベルにあった研修内容の見直しや新規プログラムの実施等を検討し、受講者の獲得に努めていく。